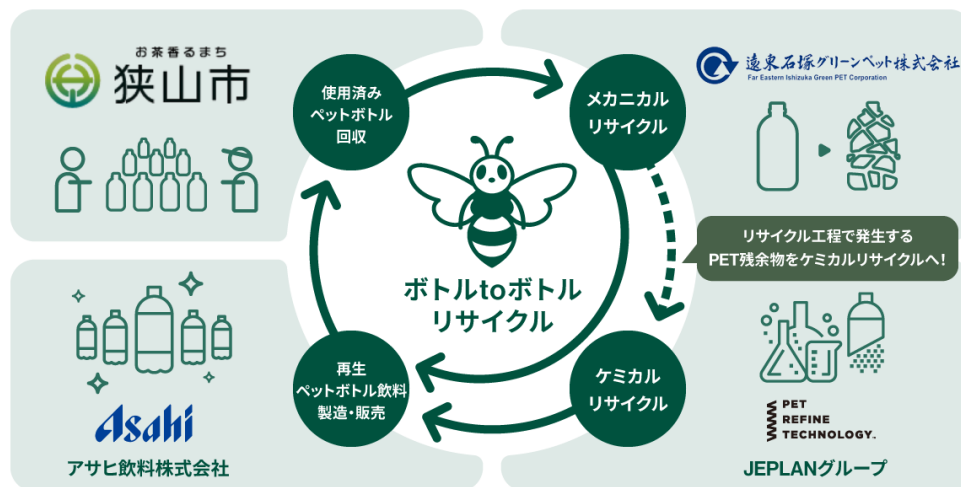


株式会社 JEPLAN
2025年4月2日

JEPLAN グループ：ペトリファインテクノロジーが、埼玉県狭山市、アサヒ飲料、遠東石塚グリーンペットとともに「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」を締結 －ボトル to ボトル リサイクルの協働により日本国内のペットボトルの循環利用を推進－

株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長：高尾 正樹、以下「JEPLAN」）のグループ会社であるペトリファインテクノロジー株式会社（代表取締役 執行役員社長：伊賀 大悟、以下「ペトリファインテクノロジー」）は、埼玉県狭山市（市長：小谷野 剛）、アサヒ飲料株式会社（代表取締役社長：米女 太一、以下「アサヒ飲料」）、遠東石塚グリーンペット株式会社（代表取締役社長：安田 真一、以下、「遠東石塚グリーンペット」）とともに、日本国内のペットボトルの循環利用の推進を目的とした「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」を3月25日（火）に締結しました。また、同日に協定書に署名をする締結式を行いましたので、お知らせします。



本協定締結により、狭山市内の家庭から回収された使用済みのペットボトルを、遠東石塚グリーンペットによる「メカニカルリサイクル（物理的再生法）^{*1}」とペトリファインテクノロジーによる「ケミカルリサイクル（化学的再生法）^{*2}」の二つのリサイクル方法を組み合わせて、効率の高いリサイクルを推進します。アサヒ飲料は、この二つの方法を活用したリサイクルを推進し、リサイクルされた再生 PET 原料を自社製品に使用することで、4者が協力し、ペットボトルのリサイクル率の向上を目指します。本取り組みは、ペットボトルの原料である石油由来資源の PET の消費を抑えられるだけでなく、製造過程で発生する温室効果ガスの排出量削減にも貢献します。

遠東石塚グリーンペットでは、メカニカルリサイクル技術を用いてペットボトル用の原料を製造していますが、そのリサイクル工程で約 20%の残渣が発生します。そのうち、5～10%の PET 資源の残余物^{*3}は、

主にペットボトル以外の製品へのリサイクルに利用されています。ペトリファインテクノロジーでは、独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いることで、この PET 資源の残余物も分子レベルまで分解し、不純物を取り除くことにより、再びペットボトルの原料にリサイクルすることが可能です。この二つのリサイクル方法を組み合わせることで、メカニカルリサイクルの工程で発生する残余物をケミカルリサイクルに活用し、メカニカルリサイクルのみの場合と比較して、リサイクル率をさらに向上することが可能になります。

今後も JEPLAN グループでは「あらゆるものを循環させる」というミッションの実現に向けて、引き続き国内外のパートナーとの連携を進め、グループ一丸となりサーキュラーエコノミーを牽引していくことに努めてまいります。

*1 ペットボトルを選別、粉碎、洗浄し、高温下で不純物を取り除いて再生する方法

*2 ペットボトルを分子レベルまで分解し不純物を除去・重合するプロセスを経て、石油由来の PET 樹脂と同等品質の原料に再生する方法

*3 PET を多く含むパウダー状のもの、ケミカルリサイクル技術でペットボトルの原料となる再生 PET 樹脂にリサイクルが出来る

■ 「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」締結式



画像提供：狭山市

(写真左から) ペトリファインテクノロジー株式会社 代表取締役 執行役員社長：伊賀 大悟、狭山市 市長：小谷野 剛氏、アサヒ飲料株式会社 取締役 兼 執行役員：近藤 佳代子氏、遠東石塚グリーンペット株式会社 代表取締役社長：安田 真一氏

本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan_info@jeplan.co.jp

■JEPLAN グループが推進するボトル to ボトルのリサイクルに係る取り組み

[\(https://bringbottle.jeplan.co.jp/\)](https://bringbottle.jeplan.co.jp/)

JEPLAN グループは、日本全国の自治体と連携し、ボトル to ボトル リサイクルの取り組みを推進しています。役割を終えたモノがゴミではなく、価値ある資源として循環する社会を目指しています。この取り組みの一環として、ペットボトルを回収し、再びペットボトルにリサイクルする活動「おかえりペットボトルアクション」を実施しています。

日本では、年間約 64 万トン*1 のペットボトルが製造・販売されています。そのリサイクル率は約 85%*2 です。しかし、ペットボトルがペットボトルとしてリサイクルされている割合は約 34%*3 にとどまっています。この残りの 66% をボトル to ボトルリサイクルすることを目指し、さらなる資源循環の推進に取り組んでいます。



*1,2,3 PET ボトルリサイクル年次報告書 2024 (PET ボトルリサイクル推進協議会) :
<https://www.petbottle-rec.gr.jp/nenji/2024/2024.pdf>

■埼玉県狭山市 (<https://www.city.sayama.saitama.jp/>)

市長：小谷野 剛

■アサヒ飲料株式会社 (<https://www.asahiinryo.co.jp/index.psp.html>)

代表取締役社長：米女 太一

■遠東石塚グリーンペット株式会社 (<https://www.figp.co.jp/>)

代表取締役社長：安田 真一

■ペトリファインテクノロジー株式会社 (<https://www.prt.jp/>)

代表者：代表取締役 執行役員社長 伊賀 大悟

設立：2008 年 10 月

事業内容：独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いた使用済みペットボトルのリサイクル樹脂の製造・販売

■株式会社 JEPLAN (<https://www.jeplan.co.jp/>)

代表者：代表取締役 執行役員社長 高尾 正樹

設立：2007 年 1 月

主な事業内容：PET ケミカルリサイクル技術関連事業（対象：PET ボトル・ポリエステル）など

本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan_info@jeplan.co.jp

JEPLAN グループは「あらゆるものを循環させる」をミッションに掲げ、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています。廃PET（ペットボトル、ポリエステル繊維等）を対象に、独自のPETケミカルリサイクル技術を用いて分子レベルに分解し、不純物を除去することで、石油由来と同等品質の再生素材に生まれ変わらせています。この独自技術を用いて、「ボトル to ボトル（ペットボトル）」や「服から服をつくる（ポリエステル繊維）」などのリサイクルに取り組むことで、限りある資源の循環を実現し、CO₂の排出量削減にも寄与しています。

なお、JEPLAN グループはペトリファインテクノロジー株式会社（神奈川県川崎市・ペットボトル対象）と北九州響灘工場（福岡県北九州市・ポリエステル繊維対象）の2拠点でPETケミカルリサイクルプラントを運営しており、国内外への技術ライセンス事業も推進しています。